

平成30年度 第2回千葉市立博物館協議会議事録

1 日 時：平成31年3月13日（水） 午後1時30分～3時00分

2 場 所：千葉市立郷土博物館 1階講座室

3 出席者：（委員） 委員長他 4人出席

委員長 萩原 司

副委員長 小島 道裕

委員 広田 直行

委員 鈴木 一彦

委員 柳谷 昌代

（教育委員会）

生涯学習部：潮見部長

同部文化財課 稲葉課長 児玉補佐 西田主査

（事務局）朝生館長、芦田副館長、高橋主査、錦織主任主事

4 議 題

- (1) 千葉市立郷土博物館の在り方について（答申）
- (2) 平成31年度予算と事業予定について
- (3) その他

5 議事概要及び議事結果

3 議 題

- (1) 千葉市立郷土博物館の在り方について 【資料1】

平成29年3月に行われた「千葉市立郷土博物館の在り方について」の諮問に対し、委員長から郷土博物館長に答申書が提出された。また、それに伴う補足意見が各委員から述べられた。

- (2) 平成31年度予算と事業予定について

平成31年の郷土博物館の予算と事業予定について事務局より説明し、各委員から意見や要望が述べられた。

- (3) その他

次回の開催日程について、平成31年7月の第1週に開催することとした。

6 会議経過

高橋主査の司会により会議を進行。潮見部長の挨拶の後、会議資料の確認及び運営規則第3条第3項の規定により、この会議が成立していることを告げた。また、千葉市情報公開条例25条に基づき会議を公開していることを告げ、以後、萩原委員長を議長として、会議が進行した。

議事（1）千葉市立郷土博物館の在り方について（答申）

萩原委員長 平成29年3月に当協議会に諮問を受けてこれまでの間、各委員から様々

な意見が出された。そしてそれを議論してきて、それらを集約したものが今お手元にあるものである。今後の博物館の進むべき方向性について答申書の形にまとめたので、これを当協議会からの答申として館長に渡したいと思う。

<萩原委員長から朝生館長に答申書が手渡される>

朝生館長 ありがとうございました。

< 補足意見 >

萩原委員長 今後はこの答申書にある在り方を十分に踏まえ、博物館事業の推進にあたっていただきたい。なお、今回の答申書に記載されているのはあくまでも今後の在り方の骨格となるもので、方向性を示している。この際、各委員から補足やより具体的な事例・実践に当たっての留意事項等があったらお願いしたい。

小島委員 若干私の方から付け加え、強化させていただいた部分を説明する。まず、1ページの（目指すべき方向性）の三つ目、「郷土史研究の拠点として、市域の歴史を市民と共に研究し、新たな魅力を発掘していく博物館」この部分を是非盛り込むべきであると考えたところである。博物館の基本的な機能として、資料の収集保存、調査研究、展示、教育普及と4つの柱があるが、調査研究を自ら行っていく能力というものが、非常に重要であろうと考えた。当然、郷土博物館なので、地域の歴史を市民と共に研究をして、研究の結果、市が持つ新たな魅力が発掘されていく、そうした拠点としての機能を是非強化していただきたいと考えた次第である。これは2ページ目の（2）調査・研究のところにもさらに書かれているが、「地域史の調査研究に高い能力を持つことが必要である」こと。また、博物館自体のあり方、活動についても研究しながら行っていくということが盛り込まれている。また、（4）には、専門性の強化も謳っている。当然ながらこうした博物館の活動を実際に行っていく専門職の職員が確保されることが極めて重要だろうと考える。また、施設の問題も当然あるわけで、場所を変えての新しい博物館についての構想も出てきているが、やはりそこにそれを担う人材がいないと十分な活動ができないのは当然である。箱ものについてはすぐに予算が付くということは考えにくいと思うが、人材については確保しようと思えばすぐにできる。そうした人材がいてこそ、新しい博物館の構想もいろいろなソフト事業を行いながら作っていくことができるだろうと考える。文中でもかなり強く、急務であると謳っているが、そうしたところを是非早期に実現していただければというわけである。ここでは、「恒常的に従事できる優秀な人材の確保・育成」とあり、その後、「委嘱や委託化も含めて」ということが書いてあり、後の部分でもアウトソー

シングとか出てくるが、そちらが言いたいことではもちろんなくて、そういった手段をとってでも早期に人材を確保し、博物館を担う人材は恒常的に博物館に長く勤務していただくということが前提でなければならない。いろいろな手段を使って早期に優秀な人材を確保・育成し、そうした方々によるソフト事業の展開、市民を巻き込んでいろいろな事業をやっていく中で新しい博物館の構想とか期待といったものも膨らんでくると思うので、そうしたところから着手していくのが望ましいのではないかと考えた。

鈴木委員

私の方からは補足というか参考にしてもらえればと思うが、先ほど小島委員がおっしゃった調査研究のところだが、調査・研究に重点を置いてやっていくということが重要なのは確かだが、その際にはテーマ設定が重要となる。研究者の方がいて、市民の中にも郷土史に興味のある方がいるので、自ずと色々なことが出てくると思うが、おそらく出てくるものを随時追っかけているだけではまとまったものではないし、体系的な資料収集もできないので、なんらかのテーマを決めて年度ごとに取り組んでいくのがよいと思う。ちょうど企画展なども年度ごとに企画されると思うので、それと同様にテーマを設定してそこに力を入れてやっていけばよいと思う。それから学習支援だが、1ページ目の○で、「学校教育と強固な連携関係にある博物館」としていて、(3) 展示及び学習支援のところには特に記載はないが、当然ながら学校、特に小中学校との連携というのは重要で、学校の方から来てもらうこともあると思うが、できれば出かけていく出張授業のようなことも念頭に進めていただければと思う。そのためには人手が必要なので、予算措置にも関係してくると思うが、その点についても付け加えておきたい。

柳谷委員

意見ということではないが、裾野を広げるという視点で答申書の(3)と(5)、(6)、(8)のあたりが該当する部分だと思う。博物館としては専門性を高めるという部分と並行して裾野を広げるということをやるとよいと思う。小学校の場合は6年生で歴史を学ぶ学習をするので、歴史を学び始める取っ掛かりとして、歴史を学ぶときの視点というか、歴史ってどんなふうに学習すると楽しいとか、どんなふうに学ぶと学習が深まるのかそうしたことを出前やこちらの館に来た時に講義してもらえるとよいと思った。それからこの後話があると思うが、体験学習をやっているようなので、こうした体験学習もぜひ充実させていただき、学校にも教えてもらえれば休みの時に来たり、出前で来てほしいという依頼も入るのではないかな。いずれにしても方向性としてこのような形で進めていただければと思う。

広田委員

今回の答申は総論として全体が網羅されており、各委員の皆さんの意見が反映されている。その中で4点について意見を述べたい。まず1点目だが、

1 ページの○の中で私が一番気になっているのが、4つ目の「郷土の歴史への興味・関心が喚起される」という部分で、ここは非常に千葉市にとって欠落している部分というか、もう少し力を入れていただきたい部分だと考えている。その上で一番上の○「本市の通史全般」という通史という部分が弱いと感じている。興味・関心が喚起されるための通史を充実させていただきたいというのが1点目である。2点目は施設についてで、私は専門が建築だが、まだまだこちらの施設は個人的には余裕があるのではないかと考えている。何かをしようと思ったときには必要な諸室が足りないのはもっともだと思うが、まず資料のリスト化、どういう資料があって、どういう資料が提供できるのかということの見える化が一段階目に必要ではないかと思う。先ほど小島委員が申されていたように施設の整備というのはなかなか時間のかかるものだと思うので、今ある範囲で、リストの見える化を進めていただければと思う。3点目は、(3) 展示及び学習支援の部分である。この2年間いろいろな資料をいただき、特別展・企画展には結構力を入れていると感じている。それよりもまず常設展をなんとかしてもらいたい。常設展の内容の充実を図っていただきたいというのが3点目である。最後に、常々これは申し上げてきたが、(8) 博物館が持つ観光資源的側面、これは二次的なものと考えている。その中で、市の政策である都市アイデンティティの観光プロモーションについて触れてはいるが、それ以前に社会教育施設としての役割というものをまず大切に考えて、社会教育施設としての役割を果たした上での観光プロモーションという位置づけを大切にしていきたい。この4点について意見を述べさせていただいた。

萩原委員長 ありがとうございます。様々な意見をいただきましたが、答申書とともに今出された意見も踏まえて、これからの郷土博物館の運営に反映させて将来に向けた検討を進めていただきたい。それでは次に議題2の平成31年度予算と事業予定について事務局から説明をお願いします。

< 芦田副館長から平成31年度の郷土博物館の予算と事業予定の説明 >

萩原委員長 ただいま事務局から説明がありましたが、委員の方々からご意見、ご質問をいただきたい。

小島委員 博物館は継続性が重要だと思うが、事業を継続しながら予算も拡充されているというのは望ましいことだと思う。いくつか質問したいが、展示の中の企画展にある「千葉氏入門パネル展示」というのはかなり概説的なもので企画展としてすべき内容なのかちょっとわからないのと、また5月23日から6月30日という期間に行う必然性は何かというのがわからなかったなので教えてほしい。

芦田副館長 企画展には資料も展示するような大きな企画展もあるが、今回については館外での展示にも活用できるようなパネルを作りたいという意図があって企画している。これまで千葉氏関係の普及に関してはいくつかパネルを作ってきたが、やはり内容が少し難しいということがあり、子供が普通に尋ねるような質問に答えるような形のパネルを作成するということを考えている。5月23日から6月30日というのは、開府の日である6月1日の前後で展示をしたいということである。

小島委員 学校等にこれを運んで、使うことを考えているということか。

芦田副館長 学校や公共の場所でも使えるパネルを作成したいということである。

小島委員 教育普及事業の「ケ 千葉氏ポータルサイトの製作」であるが、ホームページのリニューアルはたいへん良いことだと思う。先ほどの答申のところでも資料リストの見える化、デジタル化の提案があったが、博物館の利用というのは来館者に限らず、こうしたデジタル的な媒体を通していろいろな知識を得たり、資料の画像を見るなどの利用が今日盛んになってきている。そこを充実させるということはたいへん良いことだと思う。これは希望だが、千葉氏ポータルサイトとしてしまっただけでは、また千葉氏だけに限定されてしまう。やはり通史を扱うのがここの博物館の使命だと思うので、博物館のホームページリニューアルということで、ほかの部分についてもぜひデジタル的な発信をやっていけるような方向で今後進めていただければと思う。だから千葉氏だけでなく通史全般の発信と、最近ツイッターで盛んに発信されていて、私もよくリツイートしたりしているが、昨日も千葉氏の古文書についてつぶやいていて、千葉氏のサイトの方へリンクを貼っていたが、非常に簡潔にまとまっていた。こうしたことを積み重ねていくことが非常に大事だと思う。資料収集保管事業に資料のデジタル化ということが書いてあるが、デジタル化しただけではだめで、デジタル化したものを使っていくことを積極的に考えていただきたい。理想としては、ホームページの中に館蔵のすべての資料の写真が出ているのが良いのだが、いきなりそこまでいかなくても代表的な資料について、説明付きの画像が見られるという形で、資料の収集保管とリンクした形でぜひホームページを充実させていただければ良いと思うがどうか。

朝生館長 今回のポータルサイト化と合わせて、アーカイブの充実を図っていくつもりである。基本的にはサイトに組み込める部分についてはできるものから組み込んで、デジタルミュージアム的な部分を早い時期に構築できるようにするとともに資料全体のアーカイブ化がこうした古い資料を扱っている施設としては、喫緊の課題であるので、そのアーカイブ化を併せて進め、公開していくということに努めていく。また、ツイッターについては、現

在試験的に様々な分野のインプレッションを見ているところである。拡散性も大事だがレスポンスがとれるということも重視して、充実させていきたいと考えている。

小島委員 良い試みであり今後も続けていただきたいと思う。(6)の市史編さん事業のところのニュースレターとか『千葉いまむかし』という刊行物を出しているが、こうしたもののPDFデータもホームページにアップして、刊行物を手に入れなくても見られるとかそうしたことは考えられないか。

朝生館長 実は従前に出た市史も含めて、アーカイブ化とWEB上の閲覧をできるだけできるようには目指している。ただ、市史自体はかなりのボリュームがあるので難しい面もあるかもしれないが、載せられるものについては今も載せているし、また、さらに載せていくものの幅は来年度の新しいホームページの中ではより見やすく、探しやすく、入っていきやすいものにしていこうと考えている。

小島委員 先ほどのパネル展示も一種のモバイルミュージアム的なものを試行されていると思うし、新しい施設ができるまでの間、デジタルミュージアム的なものを充実させることで、施設のイメージもできてくると思うので、そのあたりを重点的にやっていただけると良いと思った。

萩原委員長 他にいかがでしょうか。

広田委員 今、小島委員が仰ったことに私も同感である。具体的な感想だが、先ほどの郷土史に興味・関心を喚起するために広報活動も重要なことだと思うが、それに合わせて展示の充実も必要かと思う。今回予算の内訳を見ると、4の展示事業が171万、5の教育普及事業が735万で約4倍強となっている。6の市史編さん事業も含めて、先ほど小島委員から千葉氏ポータルサイトのことが出たが、こうしたものが集まって常設展に使えるような仕組みを作っておくことが重要だ。普及活動で作ったものはいずれ常設展のどこかで使えるような仕組みを作っておく。展示事業にかかる予算が少ないとすれば、これらを転用できるような仕組みを今のうちから構想したら良いのではないか。

萩原委員長 他にいかがでしょうか。

鈴木委員 全般に予算が増えているということで、たいへん素晴らしいという印象を持った。市としても力を入れているということだと感じる。私が感じたことを申し上げると、今広田委員が仰ったように、展示の予算がちょっと少ないというか、伸び悩んでいるというか、他のものに比べるとちょっと低

いかなという感じがする。やはり博物館は展示が命というか、基本なので、それに力を入れることは重要だ。パネル展示などをいろいろ工夫していたり、教育普及の一部としてポータルサイトも作るということだが、観光ということも考えると、広報をどうするのが問題だと思っている。ツイッターはしているということを知ったが、例えばこの企画展、特別展をしたときにどのように広報するのかだが、おそらくチラシなどは作ると思うが、同時にネットの力が今は強いので、そちらを何とかしていく必要がある。先ほどポータルサイトのことも話に出ていたが、そうした展覧会の情報がわかるようなサイトが必要だと思う。現在は千葉市のポータルサイトに組み込まれている状態だと思うが、それだと情報量も限られるし、デザイン性も自由が利かないと思うので、そこもあわせて工夫するとよいと思う。あと、あまりお金をかけない方法として外部のサイトに掲載するという方法がある。例えばインタネットミュージアムというポータルサイトがあることをご存知か。こちらに千葉市立郷土博物館が掲載されているが、今見たら料金は一般60円になっている。だからここに掲載されている情報は古い。プラネタリウムありとも書いてあるので、これはさほどお金かからないと思いますので、修正した方がよろしいと思う。また、多分有料だと思うが、ここには展覧会情報などを掲載することもできるので、そうしたことも調査してみたいかと思う。ここはかなり力のあるサイトで、私も学生に紹介しているが、そうしたことも考えてみてはどうかと思う。広報という項目がそもそもないのでそのあたり、どうされるつもりなのか。先ほどツイッターの話があったが、前回部長の話にもあった鉄道などには全く別の食いつきがあると思うので、そうした話題も提供できればよいと思う。あと、教育普及事業については、学校との連携、特に予算的な措置が必要と思われるのは出張授業である。こちらについても今後考えていかれるとよい。現在は体験学習や講座が主体で、どちらかという受け入れる方なので、積極的に出ていくという活動を始めるのもよいと思う。今回は教育のための人員は特に増えていないということによいか。

朝生館長

はい。

鈴木委員

いずれそうしたことを考えてもよいと思う。あと、質問だが、最後のその他にある9月5日の全国博物館大会というのはICOMと一緒にされるものか。

朝生館長

はい。

鈴木委員

ICOMにも出席を考えているということか。

朝生館長

限られた旅費の中ではあるが、ICOM期間中の1日なので、できるだけ参加

できるように考えている。

鈴木委員

たいへん高い参加費なのでいろいろ大変かと思うが、積極的に出てもいいかと思う。あと、市史編さん事業だが、先日委員長とお話しさせていただいたときに、なかなか手に入らないとか手に取れないという話を聞いて、図書館に行っても禁帯出だし、なかなか手元に置いて見ることができないようなので、編さんも重要ではあるが、増刷とかは可能ではないのか。今回の予算には入っていないとは思いますが、いずれそういったことも検討されてはどうか。

朝生館長

まず、広報については抜本的な改善を図っていくつもりだ。具体的には今話に出たインターネットを活用するとともに、紙媒体としてのポスターとチラシについては、まず枚数を増やしていく。それと掲出場所の見直しを行い、できるだけ商業施設であったり駅周辺であったり、多くの人の目に直接触れる場所に少し軸足を移していく。もちろん学校には全校に周知をしていくという形を進めていこうと考えている。あわせてパブリシティという面での記者発表などできるだけ活発に行い取り上げていただくように努めていきたい。また、先ほどから話が出ている学習支援活動を行っていく上で、特に専門性の高い職員の確保が必要な中で、研究員もまだまだ要望していかなければならないと認識しているが、まず、次はエドゥケーターを入れていかないと厳しいと考えている。やはり実際に学習支援活動をする、また学校とのインターフェイスになっていくというエドゥケーターを入れて、効果的に学習指導要領にも沿った中で各学年にフィットした説明ができるという体制を作っていければと考えている。それから市史についてだが、市史もアーカイブ化できれば一番よいが、また、紙としての増刷もちょっと予算がかかることだが、なんらか考えていかなければいけない課題とはなっている。市史自体はエンドレスなので、いったん現代までが終わってもまた最初からの部分で、いろいろ新たな文献や資料が出てきて、解釈が変わってきたりするので、また作り直しを始める時期も来る。いずれにしても過去に取りまとめたものについてはきちんとした保管体制とそれを見てもらえる場の確保は必要かと考えている。

柳谷委員

今のことも含めてだが、例えば千葉氏だけに限らずということであればいいことだと思うが、私の学校の方は埋め立て地だが、埋め立て地になる前資料などは結構こちらにあると思うが、「海と千葉」という特別展をされるということなのでそうした資料が集まっていると考えてよいのか。

朝生館長

特別展なので、外から借りてくることにもなると思う。

柳谷委員

なぜかというと3年生で千葉市の昔のことを学ぶということがある。そし

て6年生で歴史を学ぶ。例えば6年の間に1回かならずここに来て学ぶようなサイクルで、ここに来たらそれ学べるというのがあると必ず来るようになる。先ほど学習指導要領に沿った内容という話があったが、それはすごく必要で、学校の学びに必要な展示があれば必ず学校は活用するので、そうした連携を図っていくことも考えるといいのではないかと思う。今のところ考えられるのは3年の千葉市と6年生の歴史、それと総合的な学習でこちらに来て学ぶとか、そうした学校の現場の具体的な要望を把握して、やると裾野が広がると思う。

萩原委員長 他にいかがでしょうか。

小島委員 職員の問題も先ほどから申し上げているが、嘱託が増えるということだけではなくて、是非正規の職員で博物館の将来を担う方を採用していただきたいと思う。先ほどエドゥケーターを優先したいということであったが、需要は確かに高いと思うが、博物館のエデュケーションをどのような人が担うのかについては議論があり、必ずしも教育の専門家というよりも、むしろ博物館の扱っているテーマ、ここであれば歴史であるが、そういったことにきちんとした知識のある人でないとなかなか難しいのではないかと思う。そういった方がエデュケーションについての研修をしっかり受けた上でそういった任に当たるというのがどうもよさそうだという認識になってきている。当館でも学校教育畑でずっとこられた方にエドゥケーターとして来ていただくことがあるが、やはり学校教育と社会教育というのは根本的に違うので、そのところがズレが出てしまう。学校教育というのは同じことみんなが一斉に学ぶ場であるが、社会教育というのはそれぞれのニーズに応じて自分のペースで学ぶということ、その違いが混乱してしまうと社会教育としての本分がおかしくなってしまう。確かに学校教育というのは非常に重要で、それについて十分に理解のある方がエドゥケーターとして就かれるということがもちろんだが、社会教育との違いということに十分な理解がとても大事だと思うので、そうしたことに留意いただければと思う。それからその他の(8)のところでも3つほど博物館協会の関係が出ていますが、歴史民俗系博物館協議会という組織を震災の後歴史民俗博物館が事務局をしているので、ここも歴史系の博物館なので、ぜひ参加していただきたい。会費は0だが、大会への参加費は必要で、今年は北海道なのでちょっと厳しいかとも思うが、一緒にやっていただければと思う。それから先ほどの答申にも関わってくるが、これから新しい博物館を目指して基本構想を作っていくという中で、そこに向けての予算や事業というのは何かないのか。例えば他の博物館を視察に行き、どういう博物館がよいかを学んでくるとか、そういったことをどこかで発表するとか、市民とともに考えるとか、そういった事業があってもよいのではなかったのだが。その辺りはいかがか。

朝生館長 基本的にはまず施設については、答申にもいただいたようにまだしばらく使っていけるので、それはそれで将来どうすべきかについては考えていく。しかし教育普及事業であったり、その他の管理運営面での改善点でお金がかからないことはすぐに始めるし、少し予算が必要なものについても次年度以降の予算にできるだけ盛り込めるように努めていく。今お話しが出たように基本構想的なものも、来年ではないがいずれ作っていくための館としての素地を作っていかなければいけないと思っている。おっしゃったように他の館をまず見るということも必要であるし、社会教育施設としての博物館の本来の姿というかあり方というか、そうしたことについての認識も、この館がスタンダードになってしまっは大変なので、文科省や文化庁が主催する研修などにもできるだけ参加するようにしている。それから他の博物館を見に行くということからできるだけ知見を高めて、ここの博物館をどうしていくのかという部分を考えていかなければいけない。したがって先ほどの（８）にあったような他の博物館の動向も十分注視して、自分たちの行くべき道を考えていくということを職員といろいろ協議をしているところである。

萩原委員長 一ついいか。特別展の「海と千葉」というのは、これは昨年県の文書館がやったものと関連があるのか。

朝生館長 直接関連はさせていない。先ほども出た鉄道も今県の中央博物館でやっているが、どうしても海とか鉄道あたりが近現代だとテーマとなっており、様々なところで行われているが、ここに載せている「海と千葉」というのは基本的にはオリジナルで千葉市の歴史として取り上げていければと考えている。

萩原委員長 柳谷委員がおっしゃったように埋め立てでどうなったというようなことだと思うが、昨年文書館のやった展示を見に行ったが、閑古鳥が鳴いていた。広報の仕方がまずかったのかもしれないが、展示されているものは結構面白いものがあった。それと今中央博物館でやっている鉄道の展示だが、初めの頃に鈴木委員がおっしゃったように研究はテーマ性、何のテーマ性かという、千葉市というものを理解するための入口としてどういったテーマがあるだろうかということはある程度絞って、それを計画的に配置していかないと、突然ぽつと今年は海と千葉やるよと来年は何やるかということをもたまたま考えなければならぬ。千葉市を理解する上でこういった入口があるよといったものをある程度つくっておいて、それにのっかって、テーマ性を順次実施していったらいいのではないかと思った。だから今年はたまたま「海と千葉」ということだが、これは何か理由があつてのことか。

朝生館長 いわゆる千葉氏関係で2年やったので、今年は、やはり都市アイデンティティの一つである海について、海を開発して千葉ができた、あるいは昔はここが佐倉藩の港だったとか、そういった部分の現代に至る過程からなんらか身近に千葉市を感じていただければと、今委員長がおっしゃったように日本史の勉強のようになかなか一般の方に覚えていただくわけにいかないと思うので、できるだけ近現代とか記憶とか、とっかかりのあるところからまず千葉のちょっと前の歴史を知っていただく。また、近世とか中世についてもやはり千葉となんらかからめて覚えていただく機会として郷土愛の醸成につながるようなテーマを作っていければと考えている。

萩原委員長 先ほどの繰り返しになるが、千葉を理解するための入口がたくさんある。それをある程度構造化して、順序立てていくとわかりやすい。ある程度計画性を持っていると広報の仕方も変わってくる。ぜひ計画性をもって進めていただきたい。

朝生館長 答申にも特別展・企画展の計画的をよく立ててから、数年先までの計画と立ててからという意見を頂戴しているが、数年間のタームをきちんと作ってやっていながらそれが有機的に結びつくようにやっていきたいと考えている。

(3) その他

萩原委員長 他にいかがでしょうか。ご意見がないようですので、議題3のその他について、事務局から願います。

朝生館長 本日は答申をいただくとともに様々なご意見を頂戴しありがとうございます。できるだけ速やかにそれぞれ反映をしていけるように今後努めていくので、引き続きご指導いただきたい。次回については、7月の第1週を予定したい。3日(水)か5日(金)で調整させていただくことでよろしいか。なお、今回は予算をやったが、次回は30年度の事業と予算執行の振り返り、また本日答申をいただいた内容等について新たに事業を改善したり新たに始めたりという部分についての報告、そこで出た意見をもとに32年度予算を10月頃に作っていくことになるが、その参考とさせていただく場と考えているのでよろしく願いたい。

萩原委員長 では7月は3日か5日で、今日と同じ午後でよろしいか。では他に意見等が無いようなので本日の議事はここで終了します。ご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返す。

高橋主査 本日は、長時間にわたりまして熱心なご協議をありがとうございました。以上をもちまして、平成30年度第2回千葉市立博物館協議会を閉会させ

ていただきます。
本日は、お忙しい中ありがとうございました。

問い合わせ先 千葉市立郷土博物館
TEL 043-222-8231